

# 総務企画委員会会議記録

総務企画委員長 油布 勝秀

## 1 日 時

平成30年1月24日（水） 午後1時03分から  
午後2時20分まで

## 2 場 所

第4委員会室

## 3 出席した委員の氏名

油布勝秀、木付親次、麻生栄作、古手川正治、尾島保彦、玉田輝義、堤栄三

## 4 欠席した委員の氏名

なし

## 5 出席した委員外議員の氏名

木田昇、羽野武男

## 6 出席した執行部関係者の職・氏名

ラグビーワールドカップ2019推進室長 中村剛士 ほか関係者

## 7 出席した参考人の職・氏名

株式会社日本政策投資銀行 大分事務所長 和田康宏

## 8 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

## 9 会議の概要及び結果

(1) ラグビーワールドカップ2019開催による経済波及効果について、参考人から意見聴取を行った。

## 10 その他必要な事項

なし

## 11 担当書記

議事課委員会班	課長補佐（総括）	小野清志
政策調査課調査広報班	主査	濱田誠吾

# 総務企画委員会次第

日時：平成30年1月24日（水）13：00～

場所：第4委員会室

1 開 会

2 参考人からの意見聴取

13：00～15：00

(1) ラグビーワールドカップ2019開催による経済波及効果について

3 閉 会

## 会議の概要及び結果

**油布委員長** ただ今から、総務企画委員会を開きます。

本日は、委員外議員として、木田議員、羽野議員に出席いただいております。

まず、私から御挨拶を申し上げます。

大分県議会総務企画委員長の油布勝秀でございます。

本日は、来年に開催するラグビーワールドカップ2019開催による経済波及効果について、日本政策投資銀行大分事務所長の和田康宏様を参考人としてお招きし、御意見を伺います。

参考人というところがちょっと表現がよろしくないんですが、議会用語ということでお許しを願いたいと思います。

和田様には、大変お忙しい中、本委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

本来であれば、私どもの方が出向いて、御指導を賜らないといけないところですが、足をお運びいただきましたことに対し、委員会を代表いたしまして、厚くお礼申し上げますとともに、本日は、よろしく願いたします。

まず、委員、委員外議員の順に自己紹介をお願いします。

〔委員、委員外議員自己紹介〕

**油布委員長** それでは、和田様から自己紹介をいただいて、引き続き本日のテーマについて御説明をお願いいたします。

**和田参考人** 初めまして。日本政策投資銀行で大分事務所長をしております和田と申します。私ども日本政策投資銀行は、旧日本開発銀行時代の平成元年に大分に事務所を構えまして、もう間もなく30年を迎えるということでありまして、融資の業務のほかには地域のため、大分のためになるような情報発信等もさせていただいております。

本日はそういった意味で、このような場を

与えていただきまして大変光栄に思っております。つたない説明でありますけれどもお聞きいただければと思います。どうぞよろしく願いたします。

それでは、本日は、来年のラグビーワールドカップの経済波及効果の説明ということでございますが、レポートを二つお配りしております、そのうち2015年3月の九州における経済効果試算という資料、ここにありますように数字としては2年以上前のちょっと古い資料なんですけれども、その後、数字も改定はしておりませんので、基本的にこれに基づいた説明をさせていただきたいと思っております。ただ、算出の技術的なことを申し上げても仕方ないと思っておりますので、基本的な考え方と、あとはその経済効果を高めるためにはどうしたらいいのかというところ、この部分は私の個人的な意見もありますけれども、そういったところで意見交換をさせていただければと考えております。

それでは、こちらの資料をざっと御覧いただきたいんですけども、1、2、3、4ページまでは皆さん御案内の情報かと思っておりますので、御説明を割愛させていただきまして、5ページでございます。

まず、その経済波及効果というのはどういう考え方でやるのかということなんですけれども、基本的には、ラグビーワールドカップの観戦にいられた方々ですね。これは国内でも大分、地元で日帰りで来る方もいれば宿泊を伴って県外の遠くから来る方もいらっしゃいます。あとは外国人、いわゆるインバウンドですね。こういう方が観戦に伴って、県内でいろんな消費活動をしますと、それは宿泊が伴えばもちろん宿泊費がありますし、飲食、あるいは交通ですね、その中で移動して公共交通機関を使えば交通費を使います。また、お土産を買ったりとか、いろんな経済消費活

動をするということが想定されるわけで、ラグビーワールドカップの試合の開催で観戦客が来るのに伴って、それがどのぐらいの経済的な効果を生み出すのかというのは、これはその波及効果の算出の考え方がありまして、これは大きく二つに分かれます。直接効果と間接波及効果と言うんですけれども、この下の図表5というところに直接効果というのがございます。これは今申し上げましたように、その観戦客が各都市で行った消費の金額そのものでございます。これは三つの要素の掛け算になっております。まず来訪者数ですね、これは海外、国内域外、国内近隣と。これが消費をします。これは支出の単価1人当たりですね、宿泊、飲食、交通、買物、土産品、宿泊の日数、これを掛け合わせて数字が算出されるということでございます。これは後ほどお話をいたしますけれども、2015年時点での想定のもと、一定の海外客の割合、あるいはその宿泊単価等々を置いて算出したものでございます。

次に、間接波及効果についてですけれども、こちらはちょっと難しいと言いますか、分かりにくいかと思うんですけれども、この直接効果で宿泊とか飲食等がありますが、そういったサービスが生まれるときに必要となる原材料等、例えば、宿泊であれば、食事の原材料を購入したりとか、そういった消費をするのに当たって、その原材料等の購入、要するに派生的な需要が発生するということですね。一つの消費活動、生産が行われるのに当たって、それがほかの需要を生み出すということになりますので、それで波及という言い方をするわけです。これが1次、2次とございまして、まず直接効果から生み出されるものによる効果というのが1次波及効果と言います。2次波及効果というのが、その直接効果と、あと1次波及効果によりまして、雇用者の所得が増加すると。その産業に従事している人からしても所得の増加が発生するということで、それによって新たな需要が生まれるということになりますので、それが2次波及効果

と言います。

このようにして、本来的には1次、2次、さらには3次、4次とずっと無限に続いていくわけなんですけれども、それは当然数字がだんだん小さくなっていきますので、通常この経済波及効果というのを算出するためには2次までで止めておるとというのが一般的な考え方で、私どももそういった考え方でやっております。

続いて、6ページのところでございますが、諸前提で、このときにはまだ試合のカードは決まっておりました。九州ということですので、福岡、熊本、大分の3会場で、3試合ずつ9試合という仮定になっております。それに加えまして、キャンプが、これもまだ全く決まっていない状態ですけれども、仮の施設で4か所設定されたということで、それで関係者がやって来る。これはキャンプの人数、チームの方とかスタッフとかの関係者が来るということで、それも一定数が見込まれるだろうという動きです。この括弧書きにございますように、関係者のみでございまして、試合よりはるかに九州に来られる数が少ないということで、この経済効果の数値としては非常に小さなものになっております。期間中の九州への来場者数は27万人ということで、ほぼ収容人数が満員になるそうで、そのうち海外からが4万人、その15%程度が海外からの観戦客であるという想定にしております。

その結果なんですけれども、直接効果が210億円、これによって生まれた1次波及効果は83億円、2次波及効果が57億円ということで、合計で350億円ということでございます。こちらは九州3県ということでございますので、各県ごとには算出はしておりません。ただ、おのおの3試合ずつということで、当然スタジアムの収容能力により当然その数字というのは大きく変わってきます。そういった中では、この3会場の中で大分が4万人ということで、一番大きいわけですから、大銀ドームが一番大きいわけですから、ざっ

くり考えて3分の1よりは大きくなるとお考えいただけます。なかなか精緻に出せない部分がございますので、あくまでも公表している数値としては350億円ということで御理解いただいているということでございます。

以上が算出の考え方でございます。

これはあくまでも事前の想定、予想でございます。それが実際に来年に迫ってきているわけございまして、大分として当然考えなければならぬのは、いかに経済効果を、これから大きなものにしていけるかというところがやはり非常に重要だと考えております。この数字を大きくするためにはどうすればいいかというところで、先ほどの5ページの直接効果の式、この掛け算のところをもう一度御覧いただきたいんですけども、これは非常に単純な掛け算でございまして、直接効果が大きくなれば、当然それに伴う間接波及効果も大きくなって全体としての水準も大きくなるということでございますので、この直接効果をまず大きくするということですね。そのためには来訪者数、これはもちろんいろいろPRして、皆さんに来ていただき満席になるようにというところはあるんですけども、なかなか大分だけでどうこう言うところじゃない部分もございます。そうしますと、この真ん中と右側、消費支出単価と滞在日数、この部分をいかに大きくしていくかということになります。消費支出単価は、当然長い時間とどまって、観光やいろんな消費活動をしていただく、要は極端な話、宿泊はするけど、その試合だけ見てすぐにどこかに、例えば他県に行ってしまうとかいうことになれば、大分にお金が落ちないわけでございます。あと、訪れる地域、場所も大銀ドームだけでは、チケット代は余り大分に寄与しないと思いますので、県内で要するに観戦以外の時間ですね、試合そのものの時間以外のところで消費活動をしていただくと。すなわち、一つは当然観光ですよね、その試合の前後の時間で観光して、そこでお金を落としていただくというこ

とが一つ考えられるかと思えます。

あと、滞在日数ですね、こちらも当然長くとどまれば、宿泊費そのものが増えるわけですし、それに伴っていろんな飲食とか交通費とか、その他も増えていくということになります。これも、要は観光が恐らくメインになるかと思えますけれども、その試合だけ見るとんぼ返りではなくて、一日でも長く県内にとどまって、これは国内、海外両方ですけども、とどまっていただくというのがこれから目指すべき方向なのかなと考えております。

じゃ、そのためにどうすればいいのかというところでございますけれども、一つ大きいのはやはりインバウンドですね。国内の方もファンが多くて、私どもの試算でも8割以上が国内客ということではあるんです。けれども、大分の経済効果を考える際には、この350億円という数字自体はラグビーワールドカップの期間、その試合に伴うものなんですけれども、やはり重要なのは、ワールドカップの後も見据えて、観光、特にインバウンドにつきましては、今全国的に大幅に増えて、大分の方も増えているかと思えます。大分は今まで韓国を中心としたアジアの方が中心なんですけれども、このラグビーワールドカップ、これは欧米、豪、オセアニアでして、大分の対戦カードを見てもニュージーランド、オーストラリア、ウェールズといった、まさにこういった地域が出場するということです。そういったところから当然ファンの方が来ることが想定されるということでありまして。今まで余り大分に来ることがなかった国の方々が来られるということでありまして、こういった方々に、要はラグビーワールドカップが終わった後も来てもらえるようにしていくような策を考えていくというのが一つ重要なかなと考えています。ただ、こういった方々、例えば、オセアニアとかウェールズとか、なかなか日本に観光で来られた方というのは恐らくそんなに多くなくて、そうすると、大分という県の名前は既に知っている人は恐らく少ないと思うんですね。まして九州すらよく

分かっていない、地理的な位置関係、東京との位置関係とかもよく分かっていないというところなので、そこをどうしていくのかというところで、これは私の個人的な意見ですけれども、まずは大分の魅力を知っていただくというところでは、私も県外の人間と言いますか、関東の出身でございまして、一昨年から大分に来ておりますけれども、大分というのは非常に住むにも観光にも魅力的だなと考えております。大分というのが非常にいろんな魅力に富んでいると。これが今まで欧米、豪から観光客が余り来なかったというのは、大分の良さを知られていないからで、実態を知ってもらえば、それは来てもらえるであろうというような考えになりがちだと思うんです。それはそれでももちろん間違いではないんですけれども、より誘致を効果的に、観光客を増やすのを効果的にするためには、やはりそれだけではなくて、各国の方々でどういったものが受けるのか、要するにどういったものを観光に求めているのかというのは、恐らく国によって違って来るわけでありまして。韓国とか、アジアの方は温泉が好きだというのが当然あって、それもあって非常に多く来られているということだと思います。欧米・豪の方が温泉をどれぐらい好きかというのはもちろんあるんですけれども、当然温泉だけじゃない、いろんな観光資源が大分にあるわけです。そういった各国の方々はどういったところを好むのかということと調べて、それに向けた観光PRをしていくという、そういった発想を、要するに今あるものを全体を総花的にお見せしてどうぞ来てくださいというものもあるんですけれども、やはり一歩進んで望ましいのは、消費者と言いますか、海外の各国の方々はどういったものを好まれるのかということと調べて上で、それに向けた対策を練っていくというのが重要なかなと思っております。

あとは私の方から、経済効果という話をあくまでしてございましたけれども、もう一つお

配りしている2016年5月のレポートは、本店の地域企画部というところが中心になりまして、全体の数字を出しております。この数字自体御説明は省略させていただきますけれども、一番最後の23ページを御覧ください。開催都市のポジションを活かした経済波及効果の拡大に向けてということでありまして、私がここで御参考までに申し上げたいのは、経済波及効果というのは、まず特に大分においては観光が一番目につくと思うんですけれども、それ以外のものもいろいろ考えられるということです。観光というのは左の上の方にございますけれども、教育とか食、企業、ハードの整備ですね。スタジアムの整備、これは大分はワールドカップのための追加的な投資というのはそんなに大きくないと思うんですけれども、地域によってはスタジアムの関係で大規模な投資をやる場所もあります。あとは製造と言いますか、ビジネスですね。こういったところでスポーツ関係のビジネスを生み出すことも考えられるということです。こういったところ、いろいろと御関係の方々には既にお考えがあらうとは思いますが。私が不勉強で単に認識していないだけということになるんだと思うんですけれども、ワールドカップそのもの、ワールドカップを契機にいろんな分野で効果というものが期待できます。そこをどう掘り起こしていくのかということも考えていただいて、ラグビーワールドカップ5試合で、1試合4万人の満員になれば20万人という、ものすごい人が来るわけで、観客の方々に、あるいは関係者の方々に満足いただけるように円滑に開催するというのは、これは大変重要なことでもあります。せつかくの大分での近年にないビッグイベントであります。これを通じていろんな経済効果を含めて、更に申し上げれば、先ほどのインバウンドのところでも申し上げましたけれども、その開催期間中だけではなく、その期間が終わってもその効果が恒久的に続くようなことをせつかくの機会ですので考えていくというのが大分の経済のためにいいの

ではないかなと考えております。

**木付副委員長** ありがとうございます。

これより意見交換に入りますが、ざっくばらんにいきたいと思います。

御質疑や御意見、御提案など、何でも結構ですので、お願いします。

**玉田委員** お話しいただいた結びの中で、九州内の周遊というところをポイントとして少しコメントされていますけど、その福岡、大分、熊本の3県の中で、一昨年の熊本地震において、熊本と大分の間の主要幹線が寸断されているんですね。これがラグビーワールドカップまでには復旧の見通しがまだ立っていないということで、その辺の影響というのはどうお考えでしょうか。

**和田参考人** そうですね、やっぱり交通インフラの一部が寸断されているというのは、いい影響は与えないと思います。その中で、あと一つ前提が、大分に来られる方が観光で、阿蘇等との周遊をセットで考えられる方というのは多いんだと思います。その部分は、どの程度かというのはなかなか申し上げにくいですが、悪い影響と言いますか、マイナスの影響があるかもしれません。けれども、それだけではなくて、大分の中でやはり何か所も周遊していただくようなところを考えてはどうかと思います。試合の間隔が非常に長いということと、あと、通常欧米豪の方は比較的長い期間日本の国内に滞在されるというデータもあります。例えば、イメージだと、国内の旅行客、あるいはアジアの方は1泊とか2泊とか、福岡から入って阿蘇、大分を回ってといったパターンが一つ考えられると思うんです。けれども、そうではなくて、もうちょっと長い期間大分にぐるっと周遊していただく。もちろん大分1か所だけに来るという人はなかなかなくて、例えば、海外の方は、自国のチームと一緒に国内の試合地を回るということもあるかと思えます。その中で、大分の中で少しでも周遊していただく。それは別府か湯布院か大分市内か、その中で長くどどまっていたいただくような努力をしていけば

いいかなと思っております。

**玉田委員** 大分の中でもまず長期の周遊を視野に入れて考えてみたらどうかと、そういうお話ですよ。

**和田参考人** そうですね、はい。

**玉田委員** もう一つは、外側から大分に来られて見たときに、我々はずっと大分に住んでいると、なかなか大分の魅力というのが見えにくいところもあると思うんですけれども、先ほどインバウンドの中で、ヨーロッパ、オセアニアの方が大分の魅力を感じるとすれば、ずばりどういうところなんでしょうか。

**和田参考人** そこは私も専門家ではないので、なかなか、これだとは申し上げられないんですけれども、例えば、よく耳にするのは、比較的欧米の方は文化財とか、国東の神仏習合であるとか、臼杵の石仏であるとか、ああいっただものに興味がある。あと、この場合は国東になってしまいますけど、体験と言いますか、ウォーキングと言いますか、そういったもの。温泉が好きな方もいるかもしれないんですけれども、そういう文化的な面だったり、体験型のものであったりとかいうもの。これは海外の方のいろんな意見を聞いたり、あるいは観光業者さん等が知恵を絞って新たに考えていくという部分があるんだろうと思います。そこは今までのやり方の結果、今の数字では、余り来られていないということになっていますので、今までにないようなところをPR、新たに発掘して売り出していくという部分がやはり必要なんだと思います。そこはやはり当事者を中心に考えていくということかなと思っております。

**麻生委員** 今日は経済波及効果の試算ということでありましたが、今回、5試合が具体的に決まったわけですよ。土曜日が2回、水曜日が2回、日曜日が1回と。最近、この10月の行楽シーズン、絶好調の中で、極端な話が、何もしなくても土日はもういっぱいだと。直接波及効果の部分の宿泊者数とか、4万人が来場されると。その部分は試算の在り方として、要は上乗せ効果という部分をも



うちよつと厳密に我々、もう一度県の方でも試算をしっかりとさせないといけないなど。これだけ大きな効果があるということばかりが流されてしまうと、その後の問題を含めてどれだけの投資をするか、後の方が問題ですから、イベントそのものは成功するのは当たり前であって、それだけの方がお見えになるというのは当たり前のお話であって、この土曜日、日曜日、極端な話が何もなくても来る。要は土日でも従来の観光客と違った上乘せ付加価値がこれだけ入るといぐらいの細かい試算もやっていく必要があるかなと思っていますので、そういったアドバイスを金融の面から是非頂きたいというのが一つ。

それから、いずれにしても来訪者を増やすためにはどんなルートで大分にお越しいただくかということと、大分の認知度をどうやって上げるか。例えば、ヨーロッパあたりだったら豊後という、大友宗麟の時代からの「BVNGO」の豊後、これの地理表記等々がヨーロッパにはあると。じゃ、そういったところで大分の人がキャンペーン張って、実はここにある、日本でなくてBVNGOという表記があるわけですから、そこで、それをいかにPRして大分の認知度を上げて来ていただくとかいう工夫も要るのかなと思っています。そう考えたときに、現状の大分の国際線は、ソウルからは結構LCC等々が入っているんですが、その視点が今はっきりいって抜け落ちているんですよ。空港に、国際線を含めてこれから投資をしていく、県としての入れ替えをしていくという、そういった場合に、チャーター便でどれだけ、はっきりいって先ほど8割は国内客だと。残り2割を海外、各国からのチームとおっしゃる話がありました、それをどれだけ高められるかというのも今回の課題だろうと思うんですね。特に九重“夢”大吊橋もあったりスキー場もあったりする大分県、オセアニア方面には非常におもしろい形になると。であるならば、極端な話が、今回金融的にも、カンタス航空がキャセイパシフィックの資本を買収と言うか、

取得されたり、あるいはジェットスターも確か親会社はカンタスですよ。だから、そういった流れの中で大分にどうやって呼び込むかという部分で、何かおもしろい知恵とかアドバイスとか、あるいはチャーター便をこの試合日程に合わせて、今から確保するにはどういったことが、金融面から見てどんな投資の仕方があるのか、とかいうような部分がありあれば教えていただければなど。とりあえずそういった部分、問題認識として持っているので、何か、意見交換の場ですから、ごっくばらんには何かお話できる場所があれば。

**和田参考人** そうですね、具体的な策としてはなかなか今すぐどうというのはないんですけども、路線の問題では当然大分空港に、ソウル以外のチャーターも含めてやればそれだけアクセスがよくなりますので大いに効果はあるんだと思います。

あと、先ほど説明の中でちょっと漏れておりましたけれども、大分は知名度がないというところで、福岡、熊本といろいろ連携しながら、既にいろいろパンフレットを作られたりとかしていらっしゃると思います。一方で、先ほどもありましたように、周遊ルートで来る方というのも、それは九州の阿蘇なり福岡なりを周遊するという方もいらっしゃると思います。先ほどの宿泊のキャパの問題ももしかしたらあるのかもしれませんが、例えば、福岡とかは、要はライバルと言いますか、高速道路、交通のインフラが整備されて、福岡とか熊本が他県からでも日帰りでも十分、要は車で行って帰ってこられるところもあります。そうしますと、大分でやるから当然大分に泊まるという決まりはないわけで、どこに泊まろうかそのお客さんの自由です。そのところでやはり他県に、福岡が一番典型ですが、客室も多いですし、あとはいろんな、やはり都市としての規模が大きいのでいろんな娯楽も、ナイトライフも含めてあるでしょう。そこはやはり、ここでももちろん連携、協力し合うところも重要なんですけども、一方で、そういった本来大分で落ちるべきお金



がかつさらわれないようにするというのもやはり重要なのかなと考えています。

**麻生委員** ありがとうございます。要は大銀ドームエリア周辺で宿泊キャパというのは大体2万7千人ぐらいと。県下全域まで広げればもうちょっと増えますけれども、実際に海外からお見えになる方々のニーズに応えようとするならば、福岡とか北九州とか、あるいは極端な話が神戸からとかフェリーでお見えいただくとか、いろんなネットワークが考えられるんですね。あるいは飛行機だとか、いずれにしてもそういったものを、残り1年しかないわけなんだけれども、これから準備して、きっちり経済波及効果の試算を上乗せ分だけしっかりやっておかないと。余りにも大きく見積もって、いや、これだけ経済波及効果あるんだからと、あと回転ドアみたいに大分は全部通り過ぎて何も残っていないということじゃいけないわけです。当然その部分をこれから、今のうちから投資する部分と、レガシーとして、交通インフラであるとか宿泊インフラも含めて新たなものに金融的に政策投資銀行さんとして投資すべきポイントみたいなものもあれば、お考えがあれば教えてほしいなと思います。例えば、今空港から大分まで遠いとかいうことで、以前はホバークラフトがありました、そういったものを再度研究するとかいう話もありましたですよ。だから、そういった投資という部分で、今後の部分での論点とか視点とか、そういった部分でも構わないんですが、何かあれば教えていただければなど。

**和田参考人** 一つにはもちろん、その空港アクセスの問題というのがあって、今ジェットフォイルを検討されているという話は伺っていますので、そういったことも重要かと思えます。投資という意味では、ハード面というよりは、特に観光に関して言うと知恵を絞ると言うこと。先ほど当事者、観光関連事業者と言いましたが、それ以外の方も含めて、当事者意識と言いますか、観光事業者さんに見れば、ラグビーワールドカップだ

け見ると、まさに先ほどおっしゃられたように、行楽シーズンで放っておいても来るので、当然オセアニアの人が来れば、いろんなところで外国人対応でいろんな英語の表示をしたりとか必要になるわけです。そのところが要するに、自分たちに何のメリットがあるのみたいな話にもなりかねないところがあると思います。そこは、ワールドカップだけではなくて、その後も見据えて、恐らくは国内のハイシーズンと海外の方々の来る時期はまたずれたりもするでしょうから、そういう国内でのオフシーズンにインバウンドと呼べるとか、そういうこともあると思います。もうちょっと中長期的な視野に立ったところをやはり関係者が当事者意識を持って知恵を絞っていくという、そういう意味で、お金をかけてのハードの整備というよりは、そういったところがやはり重要なのかなと考えています。

**堤委員** 経済波及効果で350億円というお話を聞かせていただきました。来場者数が27万人、これを単純に計算すれば、外国からの来客は52億円か、単純計算すればね。そうすると、オセアニアとかニュージーランドとか、そういったところから来てもらって周遊させていくということも大事なんだけれども、8割近くというのは国内のお客さん、でも当然大分県内のお客さんもその中かなり入っているでしょうから、国内のお客さんにいかに来てもらうかということをやっぱり重点にもすべきなのかなと、効果を大きくするためにはですね。そういうところの観点というのは、単純に今計算されていると思うんだけど、国内誘客を増やしていく、そして分母を増やしていった方が将来的な2次効果は大きくなるのではないかなと思うんですけども、そこら辺はどうでしょうか、考え方としては。

**和田参考人** それはやはり、インバウンドというのを強調して申し上げたのは、一つは、全体として今国内、大分に限らずですけども、数が増えているんですね。パイと言いますか、マーケットが拡大しているので、それ

は取りにいかない手はないだろうというところで。あとは属性と言いますか、国が今までアジア中心で、欧米豪の人が少なかったのが、今回来る機会があるということです。そういう意味で、これからその辺を取り組むに当たって考えるチャンスであるということで強調をさせていただいたところであります。絶対数からすれば当然おっしゃるとおり、国内の方が多いため、そういった方々も当然取り込んで、かつやはり長い間滞在していただく。その属性と言いますか、どういう方々が熱狂的なラグビーファンで、本当に試合が終わったらすぐに出ていってしまうのか。あるいは観光もある程度考えて、10月とかそういう時期にどれだけ休みを取る方がいらっしゃるか、どういう方々が来るのかというのがありますけれども、やはりそういった方に対して、基本的には同じですよ。恐らくは温泉、別に別府とか湯布院が余りよくないということも申し上げているのでは全くないんですけども、温泉だけだとなかなか長期というのは難しい。やはり国内の日本人に対してもうちょっと、大分に来て何をするかというところで、試合を見る以外で、あそこもここもというところを幾つも作っていくというところがあれば、当然もう一泊しようとかかいう話になります。また、厳密に言うと観光と言えるかどうかですけれども、当然ラグビーのファンですから、ラグビー関係のいろんなイベントを企画すれば、それが翌日とか翌々日であれば、それがあつたのでちょっともう一泊してみようとかかいうのがあつたと思います。いろんなやり方が恐らくあつたと思うんですが、当然そこは考えていくべきだと思います。

**堤委員** 結局、富裕層はよく来るという話を聞くんだけれど、富裕層とか全体的にやっぱり金払いはいいんですか。観光とか、そういうものに対してシビアで、観戦するには非常にいい飛行機に乗ってきて、旅館もいいところ取つて、そういうのにはお金を使うが、観光についてもやっぱり同じように使っていくような性格なんですか、オセアニア、あるいは

はヨーロッパの富裕層というのは。

**和田参考人** それは、それだけのシビアな目はお持ちかもしれませんが、当然お金は持っているわけですから、それなりのものが出されれば、それはお金を払ってくれるということだと思います。

**麻生委員** いろいろ県の方とかに、かつて開催されたところの話をいろいろ経済波及効果等々のデータについても伺いするんですけど、本音のところのデータはなかなか出てこないということで苦労しているんです。例えば、インバウンドで各国の方々が開催国に行きますよね。要は、組織委員会の公式スポンサーになっていらっしゃる航空会社とかツアーリスト、そこがおいしいところをみんな持っていったら、極端な話が、開催地には余り落ちないというようなことが結構あるみたいで、それを少し工夫して改善することができないかなという問題認識を持っているんです。その際に、これまでの各国のそれぞれの国から、これまでの開催地に送り込んでいるその国のツアーリストって、1社で例えば、二、三千人ぐらい送り込んでいるんですよ。そういったところが結構幾つかあるんですよ。だから、そういったところに直接大分の受入れ側の旅行社とうまく結びつけると、幾分なりとも落ちるお金が上がるのかなというような思いもしているんですが、その辺のデータとか、そういうものというのはどこかに調べる方法はないかなとか、あるいはいい知恵がないかなと思っているんですけどね。

**和田参考人** そのデータですか。

**麻生委員** うん、データであるとか、大体調べれば、どこの国はラグビーに関しては、どこの旅行社が強いから、そこにターゲットを絞って大分の認知度を上げてもらうために、もう5試合決まっていますので、徹底的にそこをアプローチするしかないかなと思っているんですけど。

**和田参考人** そこも決まっているんですよ、各開催国の公式な、具体的なスポンサーは。

**麻生委員** 組織委員会の公式スポンサーと開

催国の送り込む部分については自由なところがいっぱいあるみたいですから、そこと直で結びつけた方がいいのかなと。だから、そういうような結びつきを、商談会をやるとか、あるいは大分の認知度をどう上げるかというのかな、何かこれまでの開催国での事例とか、何か開催地に一番たくさんお金が落ちたうまい事例とか、そういうデータの的なものがあれば是非また教えてください。

**和田参考人** 考えてみます。

**古手川委員** 麻生委員が非常に幅広く、満遍なく質問をされたんですけども、正直やっぱり経済効果、試合が決まった中での経済効果というのを知りたいですね。ですから、そういうものを調査して発表するという今後の予定のようなものはどうなんですか。

**和田参考人** 今のところはちょっと予定はしておりません。

**古手川委員** そうですか。それでは、ざっくりとなんでしょうけれども、もうはっきり準々決勝2試合で欧米の方が半分ぐらい、4万人ぐらい、それだけでもお見えになるのかなと。九州の試合もドームであれだけの、ニュージーランド、オーストラリア、フィジー、フランスでしたか、そういう形の中で、飛躍的に、もう全然基礎数字が違うので、もとの算出の部分ができているので、その辺はある程度掛けることによってざっくりと出せるのかなと想像するんですけど、きちっとしたデータじゃないんですけどね。これをやってきて、今回試合が決まる中で、入場者数が増えるという前提の中で掛ける入場者数ですから、そういった形での数字だけでも教えていただくと。

というのが、やはり大分のためにワールドカップがあるようなつもりになって、私は県議会の協議会の会長もし、イングランドにも行かせていただいておりますので、そういう中で、芝とかキャンプ地も本当にこれでいいんだろうとか、いろんな個人的に思いがあるものですから。やっぱりそのためには経済効果がないと投資をしにくい。我々も何かの

基礎があって執行部、行政の方にもっとこれをやろうよということも言えるので、無責任にただ投資だけして何も残らなかったではやっぱり議会としても言えないので、何かそういう基礎データなり考え方の基礎になるような数字ですね。今日は考え方、見方というのは非常に整理をさせていただいて、参考に聞かせていただいたんですが、そういう意味でやっぱりそういう数値的なものが概算でも聞けないのかなという思いと、是非もう一度年内の早い時期にそういう試算をさせていただいて、情報として頂けると有り難いと思います。

**木田委員外議員** 二つお伺いしたいんですけど、行政がホテルやら直接するわけにはいかないで、これから4千万人のインバウンドの時代を見通したとき、やっぱり民間に投資してもらう必要がありますよね。今度のラグビーについても、もう福岡から大分に見に来るんじゃないかという、宿泊がやっぱり足りない、大分の部屋数のキャパの問題とか、部屋のタイプとかいうことで、今後はやっぱり4千万人時代を見通して、民間にそういう取組をしてもらおうということはどうしたらいいか。今さらですけども、パルコ跡地とかに、あそこに本当立派なハイランクのホテルでもできればよかったんだろうけど、これはこれからの投資として民間にやってもらうためにはどういう仕掛けが必要なのかなと。今高野山の宿坊もかなりヨーロッパ系の方には人気らしくて、高野山が1200年やけど、こっちは大分は1300年やけんといって、宿坊も役所が作るわけにはいかんから、そういったところを活発化させるために、今後どう仕掛けが必要なのかなということを、何かヒントが頂ければ。あともう一つが、今研究を始めているんですけども、スポーツの三大会で成功例と失敗例というのがあって、シドニーは失敗したという例で評価されているようです。失われた10年ということで、レガシーが生かされなかった。イギリスはそこは真剣に研究して、ロンドンオリンピック、そしてラグビーもありましたけれども、あそ

こも島国ですけど、うまくいった成功例ということで伺っているんです。イギリスの場合は、オリンピック前後、オリンピック前、オリンピック中、オリンピック後に対して政府の政策投資を2割、2割、6割ということで、後に6割持ってきてやったんだというようなざっくりした話を聞いたことがあります。政策投資銀行さんとして、なぜイギリスがうまくいったのかとかいうところを分析している資料とかあれば、ぜひ教えていただきたいというのがございまして、そういったところはありますか。

**和田参考人** すみません、後者の方から申し上げますと、私どもでは、そこら辺、直接はやっておりませんが、遺産と言いますか、レガシー、これについていろいろ研究しているところはあるやに、私も組織外のところなので責任持ったことは申せませんが、私どもの関係あるところに聞いたところによりますと、例えば、三菱総研さんとかがレガシーの関係の協議会と言いますか、勉強会みたいなのを立ち上げておられるようです。

前者の民間の投資を促すようなところで申し上げますと、そこはまさに県なり国なりがというところではなく、民間の経営判断の中でということに当然なるんだと思うんです。別府において、その宿泊の状況で、御存じかと思いますが、インターコンチネンタルホテルができるとか、星野リゾートの北浜への進出とか、大江戸温泉物語とか、そういう意味で、それなりにやはりマーケットがあって、その中で、それを自分のところで取れる、取り込めるという判断をしているからこそ従来にないような高価格帯の、特にインターコンチネンタルもそうですけれども、かなりの客室単価と聞いておりますけれども、そういったものも判断をしているわけでありまして。そういう意味では、マーケットがあるけれども、その中で自分たちがそれを取り込めるかどうか、それはほかの事業者との競争の中でやるわけです。そのインターコンチネンタルというのは、どちらかというと今まで

にない市場を開拓と言いますか、超高価格帯のところというのがあります。そうでなくても、例えば別府で言いますと、旅館さんなんかもうちょっと価格が安い中で、いろんな競合するところが多いわけですね。その中で、やはり各旅館の中での経営努力と言いますか、ほかの似たような価格帯のものと差別化してよりよいサービスをするとか、お客さんが魅力に思うようなイベントをやるとか、そういう競争の中で勝ち残って、投資をしてもそれがちゃんと回収できるということになれば、それは投資をするということになります。そういう意味では、なかなかどこかが旗を振ってというところではなく、そこはやはり、各事業者さんもそういったところを考えるべきです。当然古くからの旅館さんも多いと思いますので、そこはやはり新築、当時はぴかぴかだったのがもうだいぶ古びてきて、お客さんにとっての魅力が少なくなってきているということも、やはりあるどこかのタイミングでそれは大きな投資として、建て替えをしないまでも大きなリニューアルをする必要が出てくるわけです。ただ、その中でリニューアルして単価を上げて、きちんとお客さんが来て、その投資額が何年かで回収できるという、当然そこら辺の確証がないともちろんそれは投資しないわけですので、そのところは各事業者さんの努力にやはり期待することなのかなと思います。

**木田委員外議員** ありがとうございます。今度は大分のフォーラスの跡地のところに大きい食のアミューズメントみたいなのができる話があるみたいなんですけれども、そうすると近隣、今大分の中心を見てもものすごく飲食店増えているんですけど、かなり競争が激しくなってくるんだと思うんです。結構外国の方は最近居酒屋に好んで来ているということも聞いたことがあるんですけど、そういったところも力を入れるといいのかなと思うんです。所長さん、大分の居酒屋というのはどうですかね。よその県と比べてものすごくいいなという気になるようなものなの



か、ごく普通という感じなのか、その辺のところは。

**和田参考人** コストパフォーマンスというのは非常にいいと思います。これだけの値段であれだけいいものと言うか、それこそ飲み放題付きで5千円ぐらいのかなりいいものが、東京だとろくなものが出てこないんですけれども……

**木田委員外議員** 料理がいいよね、料理の質がね。やっぱりそうですよね。

**和田参考人** ええ、質がいいと思います。ただ、そこはまさにワールドカップのとき外国人にどうかというのはもちろんあります。でもそこは、いわゆるジャパニーズ居酒屋みたいなものがどれだけ受けるのか、もうちょっと洋風のものがいいのかというのはあれですけども。やはりいろいろ多様なお店があると、それは例えば、ワールドカップ期間中の一時的なものでも。要するに観戦後のアミューズメントと言いますか、これは最近全国ニュースの中でもよく取り上げられていますけれども、日本はナイトライフがちょっと貧弱であると。これは全て大分に限らず、東京でもということなのかもしれないですけど。ただ、当然東京なり福岡の都会の方が、そういう夜やっているお店とか数が多いと思いますので、その部分は、当然いろいろな選択肢が、要するに試合が終わって帰って寝るだけというよりは、ちょっと遊びに行けるようなところがあった方がそれは魅力に感じると思います。そこは、これもなかなか県がその旗を振ってというわけにはいかないと思いますけれども、やはりいろんな選択肢、あるいは各お店がもてなすなど。当たり前の話かもしれませんが、外国人に喜ばれるような店づくりをしていくことが大事だと思います。

**木田委員外議員** 湯布院って結構そういう多言語メニューを食堂でもしているぐらいなんですけど、まだまだ大分は街中に全然少なく、そんなふうには全然なっていませんから。何かそういうふうに、居酒屋は結構これから伸びるのかなとか感じたことがあるので、是非

よろしくをお願いします。

**羽野委員外議員** 以前、日韓ワールドカップサッカー、大分市も会場になったんですが、そのときの実績のデータはお持ちになっていないんですか。調べていないんですか。

**和田参考人** そうですね、私ども自身は、非常にオフィス自体も人員も小さございますし、一次情報と言いますか、どこかで調べた数字を使って、今回もそうなんですけれども、いろいろ県とかが作っていただいた資料を使っています。私どもでそういった数字を作るというのはしていませんね。

**羽野委員外議員** サッカーとは対象国も違うでしょうから、比較できるかどうかというのはあるんですけど、どこから入ってきてどういう移動をしてどこを観光したかとかいうようなのがあれば非常に参考になるんじゃないかと。

今、インバウンドが急激に増えているのは増えているんですけども、全国的に増えているというわけではなくて、日本国内の行き先というのも集中していて、爆発的に増えているような状況があるんですよ。そうなれば、認知度がないということもあって、ラグビー見て応援して、その後はその都市以外のところに移動していく確率が高いんじゃないかと思うんですよ。それと、あとは宿泊は福岡県の方がちょっと厳しいかなと想像するんですけど、あそこはもうコンサートがぼんとあったらほとんど予約でいっぱいですしね。佐賀の方もインバウンドの関係でなかなかホテルが取れないんですよ。現状の中で、そこら辺を調整しないと、福岡に泊まって大分に来るにしてもホテルが、福岡もないかもしれないという状況がややもするとあるので、そこら辺の調整の必要があるんじゃないかなと思っています。

そういうことで、サッカーのときのが参考に使えるんじゃないかと思ったのでちょっとお伺いいたしました。それ以上は申しませんので。

**木付副委員長** ほかに御質疑等もないので、

これで意見交換を終わります。

最後に、私からお礼を申し上げます。

本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

和田所長から頂いた貴重な御意見を参考としまして、ビッグイベントを契機とした本県振興に、県議会としても全力を取り組んでまいり所存ですので、今後とも、御支援と御協力をお願いいたします。

本日はありがとうございました。

以上をもちまして、本日の委員会を終了いたします。皆さま、お疲れさまでした。